

湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

the 58th Annual Drosophila Research Conference におけるポスター発表及び研究ミーティング

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
修士課程2年 森本健太

1. 活動日程

2017/3/28 UC San Diego Oegema lab との研究ミーティング

2017/3/29 - 2017/4/2 the 58th ADRC 学会にてポスター発表

2. 活動目的

上皮組織は創傷やアポトーシスによって細胞を局所的に損失したとき、残存する細胞が肥大化する「補償的細胞肥大」と呼ばれる現象によって、組織としての形態学的な恒常性を維持することが知られている。申請者は、RNAi を用いた網羅的スクリーニングから、補償的細胞肥大には機械刺激受容チャネルが関与していることを明らかにした。本活動は、得られた研究成果を国際学会にて発表することで、研究の重要性をアピールし、世界の第一線で活躍する研究者との議論を行うことを目的としている。また、研究推進のための共同研究に関するミーティングも行う。

3. 活動成果

まず、UC San Diego Oegema lab での研究ミーティングを行った。Oegema lab では、世界屈指とも言われるライブイメージング技術を有しており、本研究に応用できる点を多く学ぶことができた。

そして、the 58th ADRC 学会においてポスター発表を行った。ポスター発表では、約 10 名の研究者とディスカッションを行うことができた。そのうち、3 名の研究者とは、ポスター発表時間外にも、着目する遺伝子に関する分子機構、他の組織で観察されている共通メカニズムなどの議論を繰り返し行うことができた。



UC Sandiego Oegema labへの研究室訪問を行った(写真左)。
the 58th Annual Drosophila Research Conferenceに参加し、
ポスター発表を行った(写真右)。

4. 今後の展望

本活動では、研究室訪問による技術習得と学会発表による研究ディスカッションを行い、いずれも本研究を進める上で非常に有意義なものであった。今後、今回の活動で得られた内容をもとに、論文投稿に向けた追加実験を行う。また、学会で議論を行った研究室との共同研究も視野にいれ、定期的な研究ミーティングを実施することも計画している。

5. 謝辞

研究助成金として資金援助頂きました湘南藤沢学会にこの場を借りて御礼申し上げます。